

平成 26 年度

第 59 回 長野県中学校連合教科研究会

# 保健体育科

I	研究テーマ	1
II	趣 旨	1
III	参加校テーマ一覧と参加者氏名・指導者氏名	1～2
IV	研究問題と協議内容	3～6
V	本年度研究会の反省と来年度の方向	7～8
VI	あとがき	8

## I 研究テーマ

一人一人の生徒が自ら進んで運動に取り組み、運動の楽しさや喜びを味わうことができる体育学習や、健康の大切さを理解し実践力を育てる保健学習はどうあったらよいか ～教材化の工夫と評価計画～

## II 趣旨

生徒一人一人が技能を追究していく場面と、友と協力して課題を解決していく場面の関係性を明らかにし、教材化に視点をあてて検討していきたい。また、評価計画をグループワークで検討し、学び合いの場とするとともに、各校で生かせるものを作り出していきたい。

## III 参加校テーマ一覧と参加者名、指導者名

### 第1分科会

指導者	有坂 栄康 先生 (南信教育事務所指導主事)	
司会者	北垣内 博 先生 (長野市立西部中学校)	
記録者	小林 克年 先生 (信濃町立信濃中学校)	
世話係	中島 章 先生 (附属松本中学校)	
学校名	研究の要旨	
茅野市立 東部中	陸上競技「リレー」の授業で、生徒のつぶやきから学習問題をとらえ、思考力・判断力を高める工夫をした。	浅川 和彦
飯田市立 旭ヶ丘中	陸上競技「リレー」において、ルールや場、目標の果たせ方を工夫し、運動に苦手意識をもつ生徒も前向きに取り組めるようにした。	矢島 大輝
長野市立 西部中	体づくり運動において、高めたいものと手段となる運動を一致させるため、生徒の学習意欲を喚起し、目的意識的な学習を導く授業を試みた。	北垣内 博
附属長野中	アタック・プレルにおいて仲間と連携した三段攻撃を行うため、役割や準備動作に着目し、視聴覚機器を使って動きを改善する作戦を考える授業を行った。	関谷 北斗 永池 祥樹
松本市立 清水中	陸上競技「リレー」において、知識と技能を関連させるため、バトンパスの基本技能を見合う観点に沿って友と検討・修正する授業を行った。	堀口はるか
松本市立 旭町中	陸上競技「リレー」において、技能とタイム向上のために、技能ポイントのチェックカードを活用し、自分たちの実態を明確にするための工夫を行った。	山本 一博
組合立 鉢盛中	剣道の授業において、限られた時間の中での対人技能の発揮、向上を目指して生徒が追究しやすい教材の開発を行った。	林 重光
附属松本中	フロアホッケーの授業において、ゴール前の空間を生かした攻防を展開するため、既習の他の種目の技能を取り入れながら動き方を工夫した。	中島 章 井出 綾子
須坂市立 旭ヶ丘小	フロアホッケーの授業において、かかわり合いながら楽しく運動に取り組めるように、教材づくりやかかわり合いの場を設けるなどの工夫をした。	齊藤 武
長野市立 大岡中	サッカーの授業において、基礎的な技能ポイントや戦術を友との学び合いを通して身につけるため、練習方法や学習カードの工夫を行った。	山崎 亘
塩尻市立 檜川中	レポート無し	宮原 祐史
長野市立 若穂中	剣道の授業において仲間とかかわり合って学習するよさを感じるために、友とかかわり合いの場やグループ・小集団での学習の場を工夫した。	梅澤 将寿
長野市立 櫻ヶ岡中	剣道の授業において、友とかかわりながら動きの高まりを感じるために、視覚資料や毎時間の評価、グループ活動を取り入れた授業を行った。	中柴 良祐

## 第2分科会

指導者	加藤 浩 先生 (東信教育事務所指導主事)	
司会者	小川 裕樹 先生 (塩尻市立広陵中学校)	
記録者	近藤 純 先生 (佐久市立浅科中学校)	
世話係	越田 真二 先生 (附属長野中学校)	
学校名	研究の要旨	
佐久市立 浅科中	アタックバレーの授業で、運動の楽しさを味わい主体的に学習を深めていくために、ルール工夫を行った。	近藤 純
上田市立 第二中	ソフトバレーボールの授業で、課題をもち、友とかかわり合いながら技能を体得していくために、教具や学び方の工夫を行った。	青木 孝文
上田市立 第五中	マット運動の授業で、技能や体力の高まりを実感しながら学びを深めるため、友と課題を確認し合う場面や自分の動きを映像で確認する場面を設定した。	小穴 智彦
伊那市立 東部中	マット運動の学習で、友とかかわりながら運動の楽しさ・成就感を味わえるように、視聴覚機器を用いて自己の動きを見返す活動を位置付けた。	東海林 雄大
塩尻市立 丘中	マット運動の授業で、技ができる楽しさや喜びを味わえるように、視聴覚機器の活用や、友と練習する際の役割を明確にするなどの工夫を行った。	多方 祥二
塩尻市立 筑北中	マット運動の学習で、特別に支援を要する生徒を含む全ての生徒が見通しをもって取り組めるよう視覚情報を活用する授業を構想した。	岡村 圭史 吉澤 勇和 桑原 清 清水 純子
安曇野市立 豊科南中	球技領域ネット型の授業で、ボールをつないだりアタックしたりすることの楽しさを味わうために、ダブルセットバレーボールを教材として取り上げた。	麻田 記良 三村 徹
松川村立 松川中	マット運動の学習で、技を高める楽しさや友と共に演技する楽しさを味わえるよう、視聴覚教材を生かしたチームマットの単元を構成した。	柳澤 誠
附属長野中	アタック・プレルの学習で、仲間と連携した三段攻撃を行うため、役割や準備動作に着目し、視聴覚機器を使って動きを改善する作戦を考える授業を行った。	越田 真二 三ツ石誠司
附属松本中	フロアホッケーの授業で、ゴール前の空間を生かした攻防を展開するために、既習の他の種目の技能を取り入れながら動き方を工夫した。	穉澤 正仁
佐久市立 浅間中	バドミントンの授業で、「わかった」「できた」「のびた」を実感できるように、活動量を確保するための教材化の工夫を行った。	武田 典子
上田市立 依田窪南部中	球技領域ネット型の学習で、球技に苦手意識のある生徒も安心して活動できるように、ルールや用具を工夫した授業を行った。	大野 聡子
飯田市立 高陵中	バドミントンの授業で、種目の楽しさを味わえるように、主運動につながる準備運動や、付箋を使ってアドバイスし合う場面の設定などの工夫を行った。	宮内 春夫
松本市立 高綱中	保健分野「傷害の防止」の授業で、生徒が自分の考えを明らかにし、友とかかわりながら追究できるように、単元展開やワークシートを工夫した。	奈良木 義明

## IV 研究問題と協議内容

### 【第1分科会】

#### 討議題1 願う生徒の姿を導く教授行為

##### (1) 発表されたこと

- ・アタック・プレルにおいて仲間と連携した三段攻撃を行うため、役割や準備動作に着目し、iPadを使って動きを改善する作戦を考える授業を行った。iPadで撮影した映像の活用場面やその内容、どのように切り出して生徒の課題追究に生かせばよいかを課題である。(信大附属長野中)
- ・体づくり運動において、高めたいものと手段となる運動を一致させるため、生徒の学習意欲を喚起し、目的意識的な学習を導く授業を試みた。体力テストを学習内容としてどのように授業で位置付けていくかが、重要になってくる。

##### (2) 話し合われたこと

- ・体育授業におけるタブレットの使用状況と体づくり運動の単元展開、体力テストを活かした授業づくりをどのようにしているのかを協議した。タブレットを使用している撮影のさせ方や、見る観点、課題の持ち方について話し合いを深めたり、子どもたちが具体的にどのような姿になりたいのかという願いや、ねらいを明確にもたせることが大切だということをお話したりした。

##### (3) 指導者の先生のご指導

- ・映像を見せる授業を行う場合、球技は難しい。そこに「切り出し」という言葉がキーワードになってくる。どこを見せるのかを理想となる動きと比較して見られるように工夫していく必要がある。
- ・準備行動を丁寧に扱い(移動→アプローチ→着球)「いつ」「どこに」「体の向き」といった動きの連携を大切にしたい。
- ・体づくりは、目的意識をしっかりともてる単元であり、目指す姿が生まれたとき、そこをつなぐ方法(わかり)を位置付けていくことが大切になる。体づくりは、トレーニングではなく、ラーンにしたい。

#### 討議題2 陸上競技を中心とした授業設計

##### (1) 発表されたこと

- ・知識と技能を関連させるため、バトンパスの基本技能を見合う観点に沿って友と検討・修正するリレーの授業を行った。生徒の願いに寄り添った、より発展的なリレー学習の進め方について検討していきたい。(清水中)
- ・生徒のつぶやきから学習問題を据え、思考力・判断力を高めるリレーの授業を行った。撮影機器を用いた授業の工夫や思考力・判断力を高めるための手だてについて、今後検討したい。(茅野東部中)
- ・基礎的な技能ポイントや戦術を友との学び合いを通して身につけるため、練習方法や学習カードの工夫をしたサッカーの授業を行った。身につけたい技能や味わわせたい楽しさなど、単元の核になることが、より個々のためになっていくための学習展開について、今後検討していきたい。(大岡中)

##### (2) 話し合われたこと

- ・リレーの単元において生徒の願いに寄り添ったより発展的な授業の進め方や思考力や判断力を高めるために有効な授業の方法を協議した。バトンをスムーズに渡そうという課題において、子どもたちがスムーズという言葉をもとにどうとらえるのか、また、単元の時数がどの程度必要になってくるのかをお話した。学習カードについて、授業の中で子どもたちがどのようなことを考え運動と向き合っているのかを知るための工夫としてマインドマップの紹介があった。

##### (3) 指導者の先生のご指導

- ・リレーのバトンパスにおけるスムーズさは、並走の美しさと心地よさ(利得距離を生む)だと思う。リレーは、人数や直線や距離等いろいろな工夫ができる単元である。体育で何を目標としているのか、インプットとアウトプット、どんな知識を入れて活動する場面をどう仕組むかが、子どもたちの思考・判断を大きく育てることに関わってくるのだろう。

### 討議題3 剣道を中心とした教材作り

#### (1) 発表されたこと

- ・限られた時間の中での対人技能の発揮・向上を目指し、生徒が追究しやすい教材開発を行った。(鉢盛中)
- ・友とかかわりながら動きの高まりを感じるために、視覚的資料や毎時間の評価、グループ活動を取り入れた授業実践を行った。技の習得にとどまらず、身につけた技を試合で繰り返し出し、自分の得意技を身につけられるような学習展開を仕組んでいきたい。(櫻ヶ岡中)
- ・仲間とかかわり合って学習するよさを感じるためのグループ・小集団での学習の場の工夫した。生徒のやる気を引き出す導入や、仲間とかかわりたいと感じるような手だてについて検討していきたい。(若穂中)

#### (2) 話し合われたこと

- ・対人技能の向上を追究する授業や単元展開をどう仕組むかを協議した。剣道のもつ核は残しつつも、どんどん枠を崩し、単元展開や教材に工夫を取り入れていくことが大切であり、子どもたちも剣道の魅力と出会うための手だてを考え合った。

#### (3) 指導者の先生のご指導

- ・剣道の難しさは、師範(二人いることが大切)と扱わなくてはならない学習内容が多いことの二つにある。そのために、一対一の攻防にたどり着かないことが多い。試合にならない理由の一つに、判断が難しいということもある。球技というタスクゲームが必要になってくる。教師同士の試合や映像、用具の工夫を紹介していただいたが、まだまだ剣道は工夫の余地が多い領域であろう。

### 討議題4 陸上競技・ボール運動・球技の教材づくり

#### (1) 発表されたこと

- ・ルールや場、目標のたせ方を工夫し、運動に苦手意識をもつ生徒も前向きに取り組めるようにした陸上競技「リレー」の授業を行った。生徒がより主体的に取り組むことのできるような教材の工夫や単元や評価の方法について、今後検討していきたい。(旭ヶ丘中)
- ・「リレー」の授業において、技能とタイム向上のために、技能ポイントのチェックカードを活用し、自分たちの実態を明確にするための工夫を行った。生徒間で動きを見合う際の役割分担や観察する位置について、さらに究明していきたい。(旭町中)
- ・ゴール前の空間を生かした攻防を展開するため、既習の他の種目の技能を取り入れながら動き方を工夫したフロアホッケーの実践を行った。工夫した戦術が生かされるように、ルールや場の工夫など教材化について、さらに検討していきたい。(信大附属松本中)
- ・フロアホッケーの授業において、かかわり合いながら楽しく運動に取り組めるための教材づくりや、かかわり合いの場の設定などの工夫を行った。伝え合いを通して動きを高めていくための工夫について、今後検討していきたい。(旭ヶ丘小)

#### (2) 話し合われたこと

- ・生徒同士の評価について、役割分担や見る位置が大切であるという点が話題になった。何を課題にするかによって見る位置が変わっていくだろうということを話し合った。また、タイムトライアルを仕組み、競争ではなく記録へのチャレンジという単元構成を組むという話も出された。
- ・旭ヶ丘小と信大附属松本中より、フロアホッケーの実践紹介があった。教材化の工夫や用具を操作しやすくするほど動きのスムーズさに欠けるのではないかという意見が出された。

#### (3) 指導者の先生のご指導

- ・短距離走とリレーを繋げて単元を構成して欲しい。
- ・体育で育てたい資質は「〇〇し合う」である。見る位置や立ち位置は、その指導案を読んで目指す動きのイメージが持てていれば必然的に決まってくる。運動をみるということが大切な部分である。
- ・フロアホッケーの実践にはゴール型の要素が集約されていた。動きや戦術が理解されているから、学習カードの質も高まる。また、体育理論と実技を重ねたところに重要性がある発表だった。

文責者 信濃中学校 小林克年

## 【第2分科会】

### 討議題1 自ら課題をみつけ、課題を解決していく授業

#### (1) 発表されたこと

- ・ユニバーサルスポーツの視点を加えてフロアホッケーをゴール型教材として位置付けた。体育分野と体育理論を関連付けて扱うことの有効性が示唆された。(附属松本中学校)
- ・iPadを活用することで、自分の役割を明確にし、動きのイメージをもって攻撃を展開することができた。また、生徒が課題把握する上でも有効な手だてであった。(附属長野中学校)
- ・運動の「楽しさ」と「必要感」を感じられるような単元設定を行った。全員がアタックを経験できるよう工夫したが、ゲームでのアタック出現回数が少なかった。(浅科中学校)

#### (2) 話し合われたこと

- ・運動経験や技能の二極化が問題であるという点、体育理論の扱い方をどうすればよいかという点について話題になった。また、フロアホッケーの紹介があり、その特性について話題になった。
- ・iPadなどのタブレットの活用方法について各校での取り組みが紹介された。運動量をどう確保していくかについて話題になり、触球数の偏りが出ないような教材化の工夫ができればよいという意見が出された。

#### (3) 指導者の先生のご指導

- ・フロアホッケーは、空間でなく平面でのパット操作になるので「ゴール型」の戦術を学びやすくなる。また、プレーが連続しているので運動量も確保できる。ルールや人数については検討が必要である。
- ・iPadを使った実践では、動画の撮り方が指導されていた。子どもが動画を見るときに視点を明確にし、課題把握、学び合いのための根拠、自己評価として利用したい。
- ・ゲームでアタックを増やすには、ラリーにつながるための教材化レベルでの工夫が必要である。

### 討議題2 技能を向上させる生徒同士の関わり

#### (1) 発表されたこと

- ・トスの前に予備セットを入れた4段攻撃を行うことで、技能的に難しいトスを介した攻撃を展開できた。役割が明確で動きやすく、友との関わりも生まれやすい。(豊科南中学校)
- ・ラリーが続く楽しさに焦点をあてた「ワンバウンドバレー」を行い、苦手な生徒も安心して活動することができた。課題は「勝つ楽しさ」との両立。(依田窪南部中学校)
- ・オーバーハンドパスをつける力の中心に据え、教具の工夫から自然とオーバーハンドパスの重要性に気付き練習していくことができた。課題は、触球数の個人差。(上田第二中学校)

#### (2) 話し合われたこと

- ・ネット型(連携タイプ)のカリキュラムや教材化の工夫について話題になった。また、チーム編成についてや、苦手な生徒への手だて・できる子への手立てについて話し合った。オーバーハンドパスの難しさを、教具を工夫することで解決したという実践について、話題になった。

#### (3) 指導者の先生のご指導

- ・カリキュラムがしっかりしていてつける力が明確である。ボールを持たない時の動きに着目した準備行動を学習することができたのではないかと。
- ・ルールの工夫が多くなされていた。1回の攻撃で必ずボールに触れるよさはあるが、1回目にボールに触れると出番がなくなるという点は課題になるだろう。
- ・ユニバーサルデザインを意識し、苦手な子に焦点を当てながら得意な子も楽しめる教材研究が大切である。学ばせたいことを単元の中核に据え、毎時間そこに迫るような単元展開が大切になってくる。
- ・オーバーハンドパスを使いたくなるようにボールが工夫されていた。ゲーム中もオーバーハンドパスが多く使われ、技能の高まりがあった。触球数の差は教材レベルの工夫が必要である。

### 討議題3 成長が実感できる授業

#### (1) 発表されたこと

- ・基礎技能・基礎感覚を高めるため、主運動につながる準備運動を取り入れた。また、主体的な学びを生むように、付箋を活用した話し合いを位置付けた。(高陵中学校)
- ・一人一人の技能定着を考え、バドミントンをシングルスで行った。大規模校ならではの、場所の確保や、用具、時数の工夫、どこに焦点をあてて授業を行うのか考えたい。(浅間中学校)
- ・特別支援の生徒と原級の生徒との関わりが生まれる授業を構想した。その手立てとして、タブレットを用いた視聴覚情報の充実を図った。(筑北中学校)
- ・マット運動をチーム演技で行い、友と共に演技する楽しさを味わいながら技能を習得していく体育学習を行った。チームで行うことで、苦手な生徒も取り組めた。(松川中学校)

## (2) 話し合われたこと

- ・本時のねらいを支える準備運動や、付箋を用いた話し合いの利点と課題について話し合った。基礎基本の技能の重要性、大規模校ならではの授業の工夫についても話題になった。
- ・特別な支援を要する生徒への手だてや、苦手な子も友にアドバイスができるようにするための手だて、グループ編成の仕方について話題になった。
- ・集団マットでの個人追究の時間の確保や、見られることへの抵抗についての話が出された。そのために、所属感をもたせることで意欲的に参加できるのではないかという意見が出された。

## (3) 指導者の先生のご指導

- ・ドリルは主運動につながる大切な時間になる。全員が行える、おもしろい、高まりが実感できることが大切である。
- ・コートを縦に半分にするすることで、前後に揺さぶる必要が生じ、技能を高めることができる。
- ・特別な支援を要する生徒は、やることが分かれば自ら動くことができる。学習問題を明らかにし、動画の見せ方を工夫してポイントを視覚的に示すことで解決の見通しがもてるのではないか。
- ・集団マットは、演技をつくる部分が目的ではないので、構成の部分を取り除いた単元展開はよいのではないか。集団でやることで、参加できる生徒もいる。見通しをもつことができ、安心して参加することができる。

## 討議題4 マット運動において、「わかった」「できた」と実感できる展開や手だての在り方

### (1) 発表されたこと

- ・全体での学習を通して、「技の教科書」「iPad」を手だてとして問題解決の方法を学び、それをもとに仲間とかわりながら学びを深めていく授業づくりを行った。(伊那東部中学校)
- ・倒立前転を共通技として追究した。仲間の課題について確認することでかわり合いが深まった。また、視聴覚機器で自分の動きの向上を実感することができた。(上田第五中学校)
- ・学習カードの工夫や視聴覚機器の活用を通して、動きの仕組みや技能のポイントを理解し、技の完成度の高まりを感じられる授業づくりを行った。(丘中学校)

### (2) 話し合われたこと

- ・仲間とのかかわりが生まれる支援のあり方、習熟度別・異質グループの編成について話題になった。
- ・感覚をつかむための補強運動、映像の活用のポイント、グループで課題を共有するための手だてについて話題になった。
- ・技のポイントや意識するポイントがわかる学習カードの充実が大切であるということが話題になった。また、「思考・判断」の評価をどのように行うかについて話題になった。

### (3) 指導者の先生のご指導

- ・共通学習で技能のポイントとかわり合いなどの学び方をおさえたのはよい。異質・課題別グループそれぞれの長所・短所があるので、ねらいに応じて使い分けたい。
- ・視聴覚機器により、自己評価力や運動を見る目を育てることができる。教師の示範も大切である。
- ・学習カードが、課題がわかりアドバイスしやすく、子どもの思考を読み取れるように工夫されていた。子ども同士のかかわりには限界があるので教師の出るタイミングも大切である。

文責者 浅科中学校 近藤 純

## V 本年度の反省と来年度の方向

### 1 本年度の反省

項 目	内 容
○本年度の研究テーマについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・よい（多数）。</li> <li>・生徒それぞれの課題と全体で学ばせたいことの結びつけが難しいと感じている。今回、本テーマで研究することができてよかった。</li> <li>・教材化の工夫の視点をどう考えるか、さらに研究できるとよい。</li> <li>・研究テーマのくくりが大きいように感じる。もう少し焦点化してもよいのではないか。ただし、焦点化しすぎるとレポートが出しにくくなってしまう。</li> </ul>
○研究の主な内容と研究の成果について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校で工夫した実践が集まり、とても勉強になり、有意義な時間となった（多数）。</li> <li>・各校の実践から、タブレット等の活用が目立った。自校でも活用してみたい。</li> <li>・多くの角度から自分の気付いていない点も学ぶことができた。</li> <li>・保健に関するレポートやご指導があるとありがたい。</li> <li>・映像や資料など、具体的な生徒の姿を見ながら討議ができ、大変有意義だった。</li> </ul>
○研究の方法や経過について (含レポートの書き方)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年通りでよい（多数）。</li> <li>・どの単元でも友とのかかわりを大切にしてきた。</li> <li>・どの学校でも目指す姿を明確にして取り組んでいるのだと感じた。</li> </ul>
○研究会当日の運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートの当日持参がありがたかった。</li> <li>・各校で時間をかけて作成したレポートであるので、発表・討議にもっと時間をかけたかった。</li> </ul>
○本年度運営全般について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表時間に差があった。主事先生からのご指導がもっと多くあるとよい。</li> <li>・急な参加にも対応していただきありがたかった。</li> <li>・FAX など、丁寧に送っていただきありがたかった。</li> <li>・メールによるやりとりができ、楽だった。</li> <li>・疑問点などをメールで回答していただきありがたかった。</li> </ul>

### 2 来年度に向けて

○来年度の研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続の方向でよい（多数）。</li> <li>・教材化の工夫についてはこれからも取り上げてほしい。</li> <li>・思考力・判断力を高めあう課題解決学習の在り方について研究したい。</li> <li>・生徒の主体性が伸びるようなテーマがよいと思う。</li> <li>・サブテーマに関しては、主事の先生に実践校からの情報を得て、課題となる点をもってきても良いと思う。</li> </ul>
○来年度の研究の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続の方向でよい（多数）。</li> <li>・発表する内容について、「教材作り」「授業設計」「教授行為」等、どこに焦点を当てられたかを明記してあるとよい。</li> <li>・健康や保健に関する研究も大切にしたい。</li> <li>・評価について扱いたい。</li> </ul>
○来年度の研究の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続の方向でよい（多数）。</li> <li>・悩みなどに対応していてありがたい。</li> <li>・一つ一つの実践をゆっくり見られるとよい。</li> <li>・思考・判断に関することを扱いたい。</li> </ul>

○その他、改善したい点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート作成から綴じ込みまでの負担が大きい。</li> <li>・飯田へ帰るとなると時間が遅くなり負担が大きい。</li> <li>・文書の記述がたくさんあり、迷ってしまう。</li> <li>・レポートの提出について、当日なのか、郵送するのか、メールで送るのかについて、迷っている他教科の先生がいた。</li> <li>・レポート発表の時間制限を設け、指導者の先生のご指導の時間を確保したい。</li> </ul>
-------------	--

## VI あとがき

朝夕の寒さが一層厳しくなる中、長野県中学校連合教科研究会が、県下各地からお集まりいただいた先生方の熱心な発表と討議によりまして、大きな成果をあげて終わることができました。

終日にわたる研究会において、熱心にかつ丁寧にご指導いただきました県教育委員会指導主事の有坂栄康先生、加藤浩先生に心から感謝申し上げます。また、綿密な司会計画を立てられ、討議を深めていただいた司会の北垣内博先生、小川裕樹先生、さらには、当日の各分科会の記録及び研究集録の執筆にご尽力いただいた記録者の小林克年先生、近藤純先生にも深く感謝申し上げます。

最後になりましたが、日々の実践を携え、研究会を深めていただきましたご参会の先生方にも深く感謝申し上げます。来年度の研究会には、さらに多くの先生方の参加をいただき、有意義な研究会になりますことを願い、まとめとさせていただきます。

委員長 越田 真二  
副委員長 中島 章